

## 世界人道デー2013



国連は、毎年8月19日を「世界人道デー(World Humanitarian Day)」として、世界各地で紛争や自然災害などによって引き起こされている人道問題に焦点をあて、被災地の現場で緊急人道支援に携わる人々に思いを寄せるための日と定めています。

今年の「世界人道デー」を迎えるにあたって、ヴァレリー・エイモス人道問題担当国連事務次長が以下のメッセージを寄せました。「世界がより大きな人道精神(ヒューマニティー)を必要としているのは明らかです。今年、世界各地で7,000万人以上が支援を必要としています。世界の人道ニーズが拡大の一途をたどっている今、こうしたニーズに応えるため、新たなパートナーが参加し、支援の輪を広げてゆかねばなりません。このキャンペーンはまさにこうしたことを実現するチャンスなのです。」(メッセージビデオ：英語)

今年の8月19日には、国連機関や民間団体を中心となって、世界50箇所以上で様々な関連イベントが開催されました。ニューヨークの国連本部では、10年前にバグダッドで起こった国連事務所爆破事件で犠牲となった国連スタッフの遺族を迎え、潘基文(パン・ギムン)国連事務総長主催の追悼行事が行われました。ブラジルのリオデジャネイロでは、同爆破事件で犠牲となったセルジオ・デメロ氏を悼み、その遺志を称える数々の行事がブラジル政府等によって開催されました。

ここ神戸では、国際協力機構(JICA)関西、神戸情報大学院大学(KIC)、NPO法人BERTとの共催で、日本初となる「世界人道デー」記念イベントを開催しました。前半はOCHA神戸事務所長の渡部が登壇し、「世界人道デー」の紹介と今年のキャンペーンへの参加を訴えました。そして「世界がもっと必要としているのは\_\_\_\_\_」と書かれた風船を約65名の参加者にそれぞれ配り、どんな言葉が当てはまるかを議論。最後に #Safety や #Communication などグループ毎で選んだ言葉を書き込んで掲げました。後半は、人道支援に役立つ情報通信技術(ICT)に焦点をあて、KIC福岡副学長が安否確認のスマホアプリを用いたデモンストレーションを行いました。加えて、現在もさまざまな困難に直面しながら現地で活動を展開しているJICAイラク事務所からのメッセージも紹介されました。